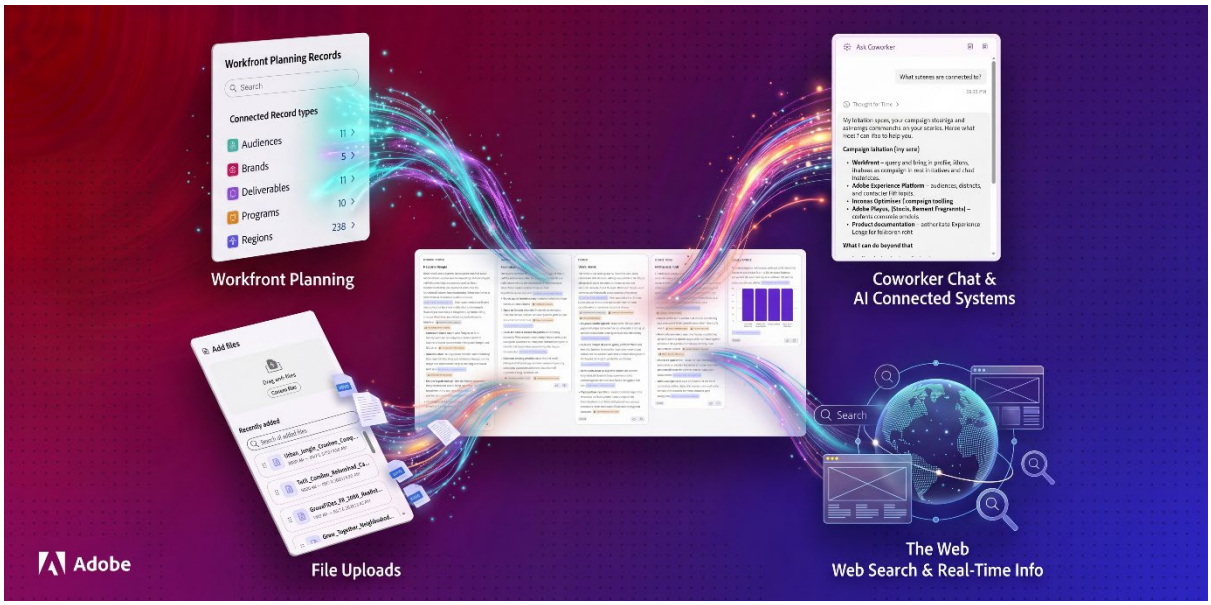
アドビ株式会社
141-0032　品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー

アドビ、「CX Enterprise Coworker」により、コンテンツサプライチェーンにエージェント型 AI を導入

- アドビは、AI エージェント搭載のコンテンツサプライチェーンソリューションを通じて、企業が「未来のスタジオ」を構築し、パーソナライズされたコンテンツ体験を大規模に提供できるよう支援
- 顧客体験オーケストレーションに向けたエージェント対応ワークフロー基盤である「Adobe CX Enterprise Coworker」が Adobe GenStudio に搭載され、人間の創造性をエージェント主導のワークフローの中心に据え、企画、制作、実行にわたるプロセスを効率化
- Adobe CX Enterprise Coworker は、Adobe Brand Intelligence から得られたビジネスおよびブランドのコンテキストをエージェント主導のワークフローに取り込み、Adobe GenStudio ソリューション全体にわたる新機能を活用して、アイデア創出やコンテンツ制作などを簡略化



※当資料は、2026 年 11 月 10 日（米国時間）に米国本社から発表されたプレスリリースの抄訳版です。

【2026 年 11 月 11 日】

アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、世界最大級のクリエイティビティカンファレンス Adobe MAX において、エンドツーエンドのコンテン

ツサプライチェーンソリューション Adobe GenStudio における AI エージェント新機能を発表しました。企業がパーソナライズを強化し、一人ひとりに最適化された顧客体験を大規模に提供することを目指す中、アドビは、統合されたソリューションとエージェント型 AI によってパーソナライズされたコンテンツ制作を加速する 「未来のスタジオ」の構築を支援します。顧客体験オーケストレーションに向けたエージェント対応ワークフロー基盤である Adobe CX Enterprise Coworker を Adobe GenStudio に統合することで、クリエイターやマーケターは対話型インターフェイスを活用し、パーソナライズされたアセットのバリエーション作成などのプロセスを効率化しながら、メッセージングやクリエイティブといった付加価値の高いタスクに集中できるようになります。これは、数十年にわたるエンタープライズコンテンツ制作支援で培われた、アドビだけが提供できるコンテキストレイヤーの知見を基にしています。AI エージェントがブランドの一貫性を管理することで、チームはコンテンツ制作を加速させて、よりインパクトのあるマーケティングキャンペーンを展開できます。

Adobe GenStudio および Adobe Firefly Enterprise 担当シニアバイスプレジデント兼ゼネラルマネージャーであるヴァルン パルマー（Varun Parmar）は、次のように述べています。「Adobe GenStudio は、グローバル企業が増え続けるコンテンツ需要に応える上で中心的な役割を果たし、今年だけですでに 7.8 兆点を超えるアセットを提供しています。マーケティングおよびクリエイティブチームには、顧客一人ひとりにパーソナライズされたコンテンツ体験を提供することが求められています。私たちは、この『未来のスタジオ』を通じて、AI エージェントでインパクトのあるクリエイティブと深いデータインサイトを組み合わせ、コンテンツサプライチェーンを再構築しています。」

Xfinity の GenAI および Creative Tech 担当バイスプレジデントであるクリストファー・グローブ（Christopher Grove）氏は、次のように述べています。「優れたテクノロジーは、人々がさまざまなクリエイティブの可能性を探求するための時間を生み出すものであるべきです。Adobe CX Enterprise Coworker をキャンペーン運用に取り入れることで、業務を一元的に統括できる環境が実現します。AI エージェントが裏方の複雑な業務をより多く担うことで、チームは Xfinity ならではの魅力を生み出し、お客様により良い体験を提供するための、より創造的なアイデアの創出により多くの時間を費やせるようになると期待しています。」

2 万社以上のグローバル企業が、データ統合、ブランドに即したコンテンツ制作、そして顧客体験オーケストレーションを実現するために活用しているアドビのエンタープライズアプリケーション群は、CX Enterprise Coworker によってさらに強化されます。このソリューションは、Adobe

GenStudio およびサードパーティ製アプリケーション（MCP や Agent-to-Agent フレームワークなどのオープンスタンダードに基づいて構築されたもの）全体からのインサイトを統合すると同時に、組織のコンテンツサプライチェーン全体に展開された AI エージェントとワークフローを調整します。マーケターやクリエイターは、Adobe CX Enterprise Coworker を活用して、キャンペーンブリーフの作成、ターゲットオーディエンスの評価、さまざまなチャネルや市場向けのアセットバリエーションの制作といったタスクのオーケストレーションと効率化を図ることができます。

コンテンツサプライチェーンにおける AI エージェントの役割が拡大する中、AI エージェントが十分な情報に基づいた意思決定を行うためには、ブランドのコンテキストが不可欠です。Adobe Brand Intelligence は、文書化されたガイドラインや明文化されていない組織内のナレッジを構築し継続的に学習する AI です。コンテンツ制作の規模が拡大する中で、ガイドライン文書に不備があっても、AI エージェントがブランドガイドラインを適用できるようにします。アドビが 600 人以上のマーケティングおよびクリエイティブ分野のプロフェッショナルを対象に実施した最新の調査では、一般公開されているコンテンツの約 3 分の 1 がブランドガイドラインに準拠していない可能性があることが明らかになりました。Adobe Brand Intelligence は、人による確認とブランドの一貫性を検証する AI エージェントを組み合わせることで、この課題の解決を支援します。

また、アドビは Adobe GenStudio 全体にわたり、クリエイター、マーケター、そして彼らと協働する AI エージェントがコンテンツサプライチェーン全体で活用できる追加機能を発表します。

- **ブランドガイドラインへの自動準拠：**Adobe Brand Intelligence に新たに追加される「Intelligent Asset Adaptation」により、ブランドに沿った形で、さまざまなフォーマットに合わせてデザインのサイズ変更や配置を自動的に行うことが可能です。チームや AI エージェントはこの機能を活用することで、例えば、キャンペーンデザインをウェブサイトのバナーやモバイル広告向けに最適化する場合でも、バージョンごとに一から作り直す必要はありません。Adobe Brand Intelligence は、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、Adobe Firefly クリエイティブ制作エンタープライズ版などのツールに統合されます。これにより、チームがすでにコンテンツの作成に使用しているツール内でブランドガイドラインの適用が容易になります。

- **AI エージェントを活用したアイデア創出と計画：** マーケティング計画・プロジェクト管理ソリューションである Adobe Workfront に、AI を活用した共同作業用キャンバス

「Ideation Space」が新たに搭載されます。これは、クリエイターやマーケターからのアイデアと、Adobe CX Enterprise Coworker が収集したコンテキストデータやパフォーマンスデータを統合し、戦略を体系的なキャンペーンブリーフへと変換します。例えば、小売業者がブラックフライデーキャンペーンを計画する際、過去の成果や商品詳細を参考にし、今シーズンの目標に基づいたブリーフを作成できます。

- **ガバナンスに基づく制作ワークフロー：** ノードベースのワークフローアプリケーションである「Adobe Firefly Graph（グラフ）エンタープライズ版」では、アドビのクリエイティブアプリケーションと主要な AI モデルを組み合わせ、組織全体で再利用可能なガバナンスの効いた再現性の高いクリエイティブワークフローの設計を可能にしてきました。新たにベータ版にて、完成したワークフローを、誰でも簡単に実行でき、ブランドイメージに沿ったコンテンツを制作できるシンプルなアプリケーションに変換する「カプセル」機能が提供されます。また、同じくベータ版で提供される新機能「ノードの公開」により、チームは組織全体で共有可能なカスタムワークフローコンポーネントを構築できます。また、Firefly Graph（グラフ）エンタープライズ版から出力されるコンテンツには、組織に紐づくコンテンツクレデンシャルが付与され、アセットの出所に関する情報を添付し、企業が知的財産を追跡・保護できるよう支援します。

- **柔軟な製品コンテンツ制作：** アドビは、製品の高精細なデジタルレプリカを作成する 3D デジタルツインソリューションを強化し、製品コンテンツの制作を加速させます。新機能により、チームや AI エージェントが、製品画像を新しい 3D シーンに配置したり、ラベルや素材を変更したり、アニメーション映像を生成したり、カスタム照明を設定したりすることが可能になります。これらすべてを、手作業による再作業を一切行わずに実行できます。

■「アドビ」について

アドビは創造性、生産性、そしてパーソナライズされた顧客体験を実現する革新的なプラットフォームとツールを提供し、 -Empowering everyone to create- すべての人が創造力を発揮できるよう支援してまいります。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト（https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html）をご覧ください。

© 2026 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.